



11月30日 扇が丘幼稚園の皆さんから収穫した柿を使った干し柿をいただきました

ごあいさつ

令和5年12月11日

今年も残すところわずかとなりました。夏の猛暑が懐かしくさえ感じますが、今年の冬も暖かいとの予報が出ています。暖冬はペルー沖の海水温が上昇するエルニーニョ現象の影響と言われておりますが、油断は禁物。除雪体制をしっかりと整え、雪への備えをしまりたいと思います。

一年を振り返ると、今年は野々市と深い繋がりがある富樫氏について、忘れられない出来事がありました。

中世、加賀を治めていた富樫氏は、11世紀、富樫家国（とがし いえくに）の時代に、野々市に館を築いたと言われております。15世紀半ば、加賀の守護となった富樫政親（とがし まさちか）の時には、浄土真宗（一向宗）の力が増していきます。政親の政治運営に不満を持った一向宗門徒は武装蜂起し、1488年、政親を高尾城で自害に追いやります。いわゆる「加賀の一向一揆」と言われる史実です。

10月、富樫氏の末裔である富樫康弘さんと共に、浄土真宗西本願寺、池田総長と懇談する機会をいただきました。政親が没して以来、535年ぶりの富樫氏と浄土真宗の「和解」となりましたが、その場に立ち会えたことは、たいへん感慨深いものとなりました。

一向一揆と言えば、「富樫は高尾城で百姓たちに討たれた」とのイメージが先行してありますが、一揆方の大将が政親の大叔父であることや、政親没後も富樫氏が本願寺に金品を贈っていたことなど、まだまだ知られていない歴史があります。

互いが争ったことは事実ではありますが、今を生きる私たちは、その歴史をしっかりと受け止め、これからどう活かしていくのかを考えなければならないと思います。

加賀の国のため、野々市のためにと、血を流した富樫氏と一向宗門徒に思いを馳せ、これからの野々市の発展を誓うとともに、時間を越えた和解を見届けたことで胸のつかえが取れた一日でもありました。

長く続いたコロナ禍を経て、さまざまな場面で市民の皆さんの活躍と笑顔にお会いできた一年でもありました。来年も皆さんにとって素晴らしい一年になりますことを心からお祈り申し上げます。

少しばかり早いですが、どうぞ、よいお年をお迎えください。